

地に足の着いた愛を育んだ二人

ケイト・ミドルトン、ウィリアム王子との愛

多くの苦難に遭いつつも、王子との愛を着実に実らせていったケイト・ミドルトン。2人が歩んだ婚約に至るまでの、新しいロイヤル・ラブストーリーに迫ります。

文/中野香織さん

なかの・かおり●エッセイスト、服飾史家。2008年より明治大学国際日本学部特任教授。著書に「愛されるモード」(中央公論新社)、「モードの方程式」(新潮社)、「モードとエロスと資本」(集英社新書)などがある

障壁を乗り越え成就した「ホンモノの揺るぎない愛」

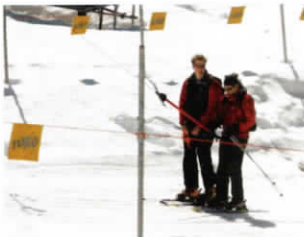
今シーズンの流行色は、当初、ベージュとキヤメルというところにならなっていた。ところが気がつけば、ファッション都市のストリートスナップにはロイヤルブルーが押し寄せている。ケイト・ミドルトン効果を無視することはできないだろう。

11月16日にクラレンスハウスで発表されたウィリアム王子とケイト・ミドルトンの婚約記者会見において、ケイトが着たISSA LONDONのロイヤルブルーのドレスは、左手薬指に輝く大粒サファイアの色のトマチとして、プリンセスドレスとして私たちの目に鮮やかに焼きついた。

影響力は、すぐに表れた。ISSA LONDONの400ポンドのドレスは即完売したばかりか、スーパーマーケットチェーンの「デスコ」が16ポンドでドレスのコピーをオンラインで販売すると1時間で完売。続いて量販チェーン「ピーコックス」が14ポンドでコピーを出す。「ピーコックス」に至っては、ウェイティンクリスト担当の「ウェイティンクリスト(Waity Katie)」という



顧客サービスの部署まで設置するというワル乗りぶり。ウェイティンクリスト(Waity Katie)は、ケイトちゃんとは、ケイトにつけられた婚約前のニックネームである。王子か



らのプロポーズを延々と待ち続ける愛すべきケイト、というニュアンスがこめられる。

実際、この二人が婚約に至るまでの経過は、長かった。スコットランドのセントアンドリュース大学で出会ったのが2001年、友人から恋人へと関係は発展し、ババラッチに追い回されながら愛を育てるものの、2007年に破局。その後再び仲直りし、一緒に暮らすようになり、2010年10月、ケニアでのプロポーズとあいなった。

破局も乗り越えての、長い恋愛期間を経ての婚約。今回のロイヤルエンゲージメントが、国境や階級を超えて多くの人々の祝福を受け、共感を獲得している本当の理由は、この点にこそあるのではない。

階級の壁を超えて王子様のハートを射止めたミドルクラス(とはいえ英国の平均的サラリーマンの年収よりも高い学費の教育を受けている)のケイトのシンデレラ物語、という見方もあるにはあるが、そんな物語など蹴散らしてしまうほどの「ロマンティック」が、この二人の軌跡にはある。

婚約ドレスに殺到する女性たちが、「あやかりたい!」と憧れるのは、シンデレラの幸運ではなく、むしろ、ウィリアムとケイトが、長い年月の間に数々の困難な障壁を乗り越え、成就させた、「ホンモノの揺るぎない愛」の姿のほうなのではないか。

BBCのインタビュで、ケイトは語る——「長い間つき合っていると、お互いを本当に理解します。いい時も悪い時もありました。私にとっても、二人の関係にとっても、でもその経験を通して強くなれるし、自分自身につい

ても学ぶことができます」

婚約会見でのケイトとウィリアムは、腕を組んで横に並んでいる。笑顔がどこか似ている二人は、階級の違いを超えて、互いが互いの鏡となるような、「対等」に向き合う関係を築いていることをうかがわせる。

30年前の、チャールズ皇太子とダイアナ妃の婚約会見の写真を眺めてみる。「プリンセス」は、ロイヤルブルーのスーツを着て、左手薬指には、今ケイトの指にあるものと同じサファイアの指輪をつけている。だが、二人の位置関係が決定的に違う。階段状の場所で、皇太子がダイアナ妃より一段上に立ち、彼女の肩に、上から片手を置いている。婚約指輪が光るダイアナ妃の左手は、背後の皇太子にふれることはできず、自分自身の右手を抱いている。不安な自分を守るかのように。「おとき話のような」結婚のその後の運命は、まだ記憶に新しい。

長い恋愛関係を通して、自分自身についても学ぶことができた、と語るケイトは、自分を生かすファッションセンスも磨いてきた。結婚後、彼女のファッションは、政治的な意味を強く帯びてくる。王室のプロトコール、伝統、階級の政治学、英国ブランド、などなどの要素を理解し、それを「象徴」として内外にアピールする力量が問われる。地に足のついた愛の継統が難しい時代に、階級の壁を超えた恋を辛抱強く育み、実らせるという難題をクリアしたケイトにとつては、なんとということはない仕事かもしれない。



ケイトの父親は元パイロット、母親は元客室乗務員。パイロットを退職した父親が1987年に子供用玩具を通信販売する会社「パーティビンス」を設立。これが成功し、一家は裕福に



二人の婚約が発表されると、イギリス国内はもとより、世界中が祝福ムードに。また、ウィリアム王子とケイトの顔写真をあしらった絵皿やカップなど、婚約を記念するグッズも続々と登場



二人はスコットランドの名門セントアンドリュース大学の同級生。2003年に大学で開かれたファッションショーでモデルをしていたケイトにウィリアム王子がひと目惚れし、交際がスタート



サファイアの エンゲージリング

ケイトの手もとで輝くのは、大粒のブルーサファイアをダイヤモンドが囲む、存在感たっぷりのエンゲージリング。これはウィリアム王子の母親、故ダイアナ元妃がチャールズ皇太子から1981年の婚約時にプレゼントされたものだろう。この会見後、サファイアの注目度が一気に上昇、価格が高騰しているとか。気品あふれるブルーの輝きはこれからブレイクすること間違いなし。



深く発色するサファイアの美しさを引き立てる、洗練されたデザイン。リング[Pt×ブルーサファイア4.24ct×ホワイトダイヤモンド1.03ct]¥9,600,000(グラフ/グラフ東京サロン)



大粒のサファイアをデコラティブにあしらったモードな逸品。個性的なフォルムもサファイアなら優雅な表情。リング[Pt×ブルーサファイア17.43ct×ダイヤモンド]¥25,725,000[参考価格](ショーム)

アンティークのクラシカルなリングでサファイアを楽しむのも手。19世紀後期の愛らしいリングは、日常使いに◎。リング[YG×ブルーサファイア×ダイヤモンド]¥504,000(シャルマン 青山店)



全世界が注目した
婚約記者会見スタイル！

2010年11月16日、セント・ジェームズ宮殿にて腕を組みながら婚約発表会見を行ったウィリアム王子とケイト。滞在先のケニアでのプロポーズを明かしました。ケイトのリングやドレスはもちろん、ウィリアム王子がつけていたオメガの時計も世界中の話題に



イッサ ロンドンの ジャーゼードレス

この日ケイトがまとったのは、サファイアのリングとコーディネートした深いブルーのシルクジャーゼードレス。深く開いた胸もとが印象的。ブランドは彼女のお気に入り、イッサ ロンドン。自分のスタイルを知る彼女らしい、モダンなセレクトを世界が絶賛。

ドレス¥66,150[1月下旬入荷予定](イッサ ロンドン/ブリッジフィールド ショールーム)



プリントに定評のあるブランドの新作は、華やかな幾何学柄。ワンピース¥71,400[2月下旬入荷予定](イッサ ロンドン/エストネーション)



ドレープなピンクワンピースを、ケイトのようにさりげなくまとって。ワンピース¥51,450[2月下旬入荷予定](イッサ ロンドン/エストネーション)



黒白のバラプリントがモダンなラップタイプ。ワンピース¥71,400[2月下旬入荷予定](イッサ ロンドン/ブリッジフィールド ショールーム)